

# 千葉演習林 ボランティア会

Abies 通信 (No.36)

2011.12.20

## もくじ

1. 10月度 Abiesボランティア活動  
東京大学 生態水文学研究所研修会
2. 11月度 Abiesボランティア活動  
鴨川市交流事業・野鳥の巣箱をかけようサポート
3. 11月度 Abiesボランティア活動  
天津小学校・緑の教室サポート
4. 11月度 Abiesボランティア活動  
秋の研修会聴講他

## 10 月度 Abies ボランティア活動

東京大学 生態水文学研究所研修会

相川美絵子

平成 23 年 10 月 15 日 (土) から 16 日 (日) にかけて、東京大学演習林の 1 つである生態水文学研究所 (愛知県瀬戸市) で研修会を行いました。参加者は 16 名です。(水文学: すいもんがくについては後記)

初日は各自電車を乗り継いで、尾張瀬戸駅に 12 時 30 分に集合です。途中、強風のため京葉線が止まるなどのトラブルがありましたが、無事に皆が集合時間までに集まり、タクシーに分乗して赤津宿泊施設に向かいました。

赤津宿泊施設では研究所のサポーターズクラブである“シデコブシの会”の会長である



赤津宿泊施設の前で集合写真

鎌田さんが迎えてくれ、スケジュール説明の後、職員の才木さんに研究所の概要を説明していただきました。かつて、ここがハゲ山だった時代の写真を見せていただいて現在の豊かな緑が回復した森になった経緯を聞き、これから見学する森林の姿に期待が膨らみました。

外はあいにくの雨が降っていましたが、“シデコブシの会”の小川さん、大脇さんの案内で、赤津研究林の見学に出かけ、最初にすぐ近くの気象観測施設と白坂量水堰を見学しました。流出量のデータを90年近くずっと取り続けているとのこと、大学ならではの調査の歴史の長さに驚きました。“シデコブシの会”も参加しているという年1回の堰の砂出しは大変だろうと想像できました。小長曾陶器窯跡の見学の後、森の中を登っていくと白い尾根にたどり着きました。かつては森林が破壊され一面にこのような白い岩が露出していたとのことなのですが、土を留める工事や植林などの苦勞を経て森林が回復し、現在は尾根の一部だけに昔の様子を垣間見ることができます。密生したヒノキ人工林が東海豪雨の際に崩壊した跡と、崩壊はしなかったけれど実際に密生しているヒノキ人工林を見て、森林の手入れの重要性を感じました。

宿泊施設に戻ってから、プロジェクターを用いて、鎌田さんから“シデコブシの会”の紹介と、石川さんから千葉県・千葉演習林・千葉演習林ボランティア会 Abies の紹介がありました。“シデコブシの会”は2008年に発足した若い会ですが、講座の主催や案内人の認定など積極的に行っています。私たちへの対応も“シデコブシの会”にさせていただきました。

夜に夕食を兼ねて交流・懇親会を行いました。生態水文学研究所から蔵治所長、澤田さん、才木さん、“シデコブシの会”から8名の方の参加があり、自己紹介では蔵治所長がかつて千葉演習林で勤務されていた話など共通点が見つかったりして、とても盛り上がり、交流を深めることができました。

2日目は“シデコブシの会”の上杉さんの案内による植物観察会です。実に様々な植物を詳細に教えていただき、千葉県の植物と比較しながらとても勉強になりました。最後に“シデコブシの会”の方の車に分乗させていただき宿泊施設を出発し、この地域の極相林（もともとの植生がわかる林）が残されている雲興寺や公園のツブラジイやアベマキなどの樹を見て、千葉の植生と共通点があるという印象を持ちました。その後、尾張瀬戸駅に送っていただき、研修会は解散となりました。

“シデコブシの会”の皆さんとは同じ東京大学の演習林のボランティア会としていろいろと情報交換をすることができました。“シデコブシの会”も是非とも千葉演習林に行きたいとのことで、来られた際には Abies として歓迎してご案内することを約束しました。

2日間、生態水文学研究所の職員と“シデコブシの会”の皆様には懇切丁寧に案内していただき、とても充実した研修となりました。お世話になった皆様には本当にありがとうございました。



露出した岩が残っている尾根

一緒に参加した長谷川さんに感想を書いていたので次に掲載します。

長谷川由美子

時間通りにタクシー4台で宿泊施設へ向かう。運転手さんに赤津焼きについて少し教えてもらう。珍しく杉の木がほとんど見られないが、なんとなく、木々が密集している感じ。

休憩後映像を参考に、尾張瀬戸付近の歴史等を学ぶ。この辺りが明治時代日本三大ハゲ山地帯だったこと。ヒノキ、コナラ、アカマツが主要3樹種等。

野外へ出て実地見学。敷地内の重要文化財に指定されている小長曾陶器窯跡を見学。さすが、瀬戸物の町、あちらこちらに大小の差があるものの、似たようなものがあるようだ。モデルコースにて周遊。

白坂量水堰、遠くで見ると白い砂が目につき、凄く透き通っているようには見えないが、消毒のみで飲料可能、美味しいのだそうだ。今は殆ど利用されていない建物に大きな蜂の巣があり、蜂が出入りしている。北谷、南谷の水位観測施設を沢沿いに登りながら見学。植物はやはりいくらか千葉の山ではみられない物もある。足元は花崗岩なので明るく感じられた。粒が大きい為か思ったより滑らずに歩けた。花はあまり見られなかったが、雑木林が多く、多少木々を切ったりはしているものの、あまり手を入れないでいるというので、木々が密集している。



白坂量水堰

外見には昔はハゲ山だったとは思えないが、だから余計に木々を沢山植えたのだろう。映像を観てからの見学なので、比較が出来て、よりわかり易かった。生憎の天気で周りが一望できないが、辺りの山々も際立って高い山はないようだ。宿舎に戻った途端の本降りとなったが、歩いている時はさほど気にならず良かった。

シデコブシの会、Abiesの会の紹介、親睦会とで千葉の山への興味が湧いて来たようだ！来年、みなさんが来てくださると嬉しいです。

前日と違い、夜中中降っていた雨もやみ、植物観察にはもってこい。事前に珍しい花を探して下さったり、資料を見せていただいたり。この辺り特有の植物も数種あるようだ。滅多に見られない花種類もを見せていただけた。沢沿いの林道は比較的平坦。植物に詳しい方は、興味津々で色々質問されたりしていた。私は見るだけで精一杯！この時期には珍しいと言う、マムシや千葉では比較的少ないというシマヘビなども顔を出してきた。蝶々、トンボも数種飛んでいた。同じ道の往復だったが、往きには気づかなかった点等もあり、名前が覚えられたのはスズカアザミぐらいかな。

シデコブシの会の方が車で尾張瀬戸駅まで送りがてら、雲興寺や研究所周辺を案内して下さった。猿投山さなげやまにも登って見たかったのとシデコブシの花が見たかった！

## 水文学（すいもんがく：hydrology）

地球上の水循環を対象とする地球科学の一分野の学問

研究対象は水の供給源としての降水の地域的、時間的な分布特性、蒸発、浸透、降水や地下水の移動が中心となる。

千葉演習林でも猪ノ川林道（春と秋に一般公開が行われる場所）の途中にある袋山沢で森林が降雨流出過程に及ぼす影響が調べられている。

# 11 月度 Abies ボランティア活動 鴨川市交流事業・野鳥の巣箱をかけようサポート

石川 輝雄

平成 23 年 11 月 5 日（土）に清澄宿舎にて鴨川市交流事業「野鳥の巣箱をかけよう」が行われ、Abies もサポート役で参加しました。石松夫婦、小林、石川（輝）（敬称略）の 4 名が参加しました。小林さんは今回が Abies に入会してから初めての参加です。

この行事は 2 回に分かれて行われる予定で、今回は“野鳥の巣箱を作って、設置をする”までが行われます。2 回目は来年の 4 月 7 日（土）に巣箱観察を行う予定となっています。

参加者は地元の鴨川市の小学生 18 名とその保護者です。演習林側は藤平さんと阿達さんが対応され、清澄宿舎の食堂を会場に行われました。

開講式であいさつ、スタッフ自己紹介、参加者の自己紹介、諸注意・スケジュールの説明を受けた後に各自が材料の板をもらい巣箱づくりにかかりました。

巣箱づくりは厚さ 10 cm×幅 15 cm×長さ 140 cm のヒノキの板をのこぎりで切って、部品をつくり、くぎを打って組立てます。正面の板には鳥の出入りする 3 cm 径の穴をあけ、屋根の部分は蝶番と鍵をかけ、開閉するのに必要な留め金を取り付けて完成です。

板を正確にのこぎりで切ることや金づちでくぎをまっすぐに打つことは小学生にはかなり難しく、保護者も含めてこの作業は苦勞していました。午前中では終了しないので途中昼食をとって午後から再開です。



清澄宿舎の食堂での説明風景

組み立てた後、自分の好きな色のマーカーで各自絵や文字を書いて仕上げます。かなり派手な色使いで野鳥がびっくりしないかと思われませんが、ここが一番楽しみな工程でみんなの顔が生き生きとする所です。

その後、全員の巣箱が完成したところで皆で外に出て、清澄宿舎の周囲で各自が希望した木に取り付けて終了となりました。

巣箱は営巣（卵を産んで温め、ヒナを巣立つまで育てる）の場所で一生暮らす住宅ではないこと、今回はシジュウカラやヤマガラを営巣させることを目的として、入口の穴の大きさを決めていること、営巣の時期と時間を考えて巣箱の設置時期を決めることなどいろいろと勉強になりました。



巣箱をどこに取り付けようかな

## 11 月度 Abies ボランティア活動

天津小学校・緑の教室サポート

岩崎 寿一

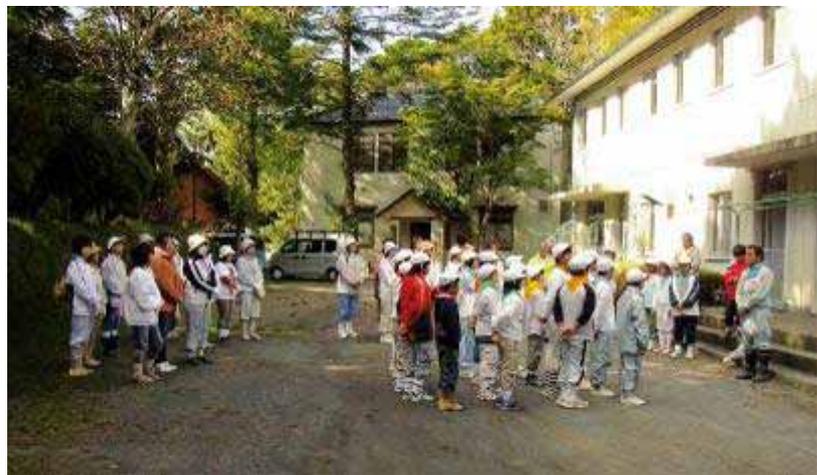
平成 23 年 11 月 15 日(火)曇り後晴れ、場所 清澄作業所周辺にて、毎年恒例の天津小学校「緑の教室」が行われ、サポートとして参加致しました。

小学 5 年生 3 2 名 教諭 4 名 保護者 3 2 名で演習林の職員の皆さんと Abies は石松夫妻、長谷川、米倉各氏と岩崎の 5 名が参加です。

小学生 3 2 名は A から D 班の 4 班に分かれ、各班はそれぞれのスケジュールを無事終わって元気に帰校されました。

D 班のスケジュールを参考に紹介します。

- 1) 毘沙門 森の説明と見学
- 2) 清澄寺 千年スギの樹高測定
- 3) 森林博物資料館 資料館見学
- 4) 昼食



開会式

- 5) 東漢森 スギ人工林の中を歩く
- 6) 同 林内 ぶり縄による木登り体験
- 7) 荒樫沢 (24B2・24A3) 内歩道から郷台林道を通り清澄作業所へ
- 8) 作業所内 ドングリ種まき、丸太切り

例年と変わったこと。

1. 実施時期が10月から11月となりました。

(時期を遅らしたためかヤマビルに全く出会いませんでした。)

2. 毘沙門崩壊地でのドングリ種まきは行われず、清澄作業所敷地にて種を播きました。数年後育った苗を後輩が移植する形となると思われます。

3. 森林博物資料館の展示物、昆虫標本が新しくなっていました。美しく魅力的になりました。

山田林長先生のご挨拶の中に、「自然は私たちにとってとても大切で素晴らしい所ですが、時には厳しい面を見せることがあります。」と云う言葉が有りました。震災の事を思い出して胸に響きました。

## 11月度 Abies ボランティア活動

### 秋の研修会聴講

秋の研修会が平成23年11月16日(水)に清澄講義室でおこなわれ、恵、中山、石川(輝)(敬称略)が聴講しました。今回の発表内容は下記の5件でした。いずれも興味深い内容ですが、特にタケモザイクウイルスの探索については最終的にはモウソウチクの開花・枯死時期を遺伝子的にコントロールする研究とのこと、竹林駆除の道が開けるのではと期待されます。



山の神様への参拝

- 「J-VER 取り引きの傾向と課題」
- 「温帯性タケ類に感染するタケモザイクウイルスの探索」
- 「千葉県外房地域における淡水エビ類の分布 (第2報)」
- 「千葉演習林におけるヒメコマツ天然および系統保存個体の現況調査」
- 重機を使用した作業のリスクアセスメント等について

注) オフセットクレジット (J-VER) (Japan Verified Emission Reduction)

直接削減できないCO<sub>2</sub>の削減分を植林やクリーンエネルギー関連の事業などで相殺するカーボンオフセットに用いるために発行されるクレジットのこと

研修会は午前中で終わり、その後、昼食のカレーライスを食堂で食べてから、山の神様への参拝をしました。Abiesの会員の皆様の分も含めて、安全のお願いをしました。

午後は清澄周辺の自然観察をしましたが恵さんが午前で帰られたので、二人での観察会となりました。予定では浅間山の周辺を歩くつもりでしたが、変更して一杯水林道と願人坊林道を往復しました。途中見ることのできた花はお会式桜(10月桜?)、リンドウ、タイアザミ、センブリ、キヨスミギク、リュウノウギク、アキノキリンソウ、キッコウハグマ、イズノシマダイモンジソウ、シラネセンキュウ、レモンエゴマ、シロダモ(花と赤い実)などです。特にリンドウは清澄宿舎の構内で多くみることができました。



センブリ



イズノシマダイモンジソウ



リンドウ

---

千葉演習林ボランティア会 Abies 通信 No. 36

\*事務局 〒264-0032 千葉県千葉市若葉区みつわ台 3-1-2-102

石川 輝雄

\*東京大学千葉演習林 〒299-5503 千葉県鴨川市天津 770

TEL:04-7094-0621 FAX:04-7094-2321